



就職新聞

2024年



自動ライブ撮影配信プロジェクト

最先端のカメラシステムを使った実習参加

Sony Music

株式会社 ソニー・ミュージックエンタテインメント
EdgeTechプロジェクト 本部 LSチーム

ソニーミュージックグループのヘッドクォーターとして、多角的なビジネスを展開。総合エンタテインメントカンパニーとして、新規事業の企画・創出を行う。そして「ソニーグループ各社と連携しながら、エンタテインメントとテクノロジーを融合させる。新規事業の企画・創出と育成を行い、グループに貢献していくことを目的に、EdgeTechプロジェクト本部が発足。



(株)音響映像 代表 寺田 藤彦

高品質なライブ撮影配信を低コストで実現音楽ライブビジネスに革命を
福田「このシステムを開発したEdgeTechプロジェクト本部は、ソニーミュージックの中で、様々なテクノロジーをもとにエンタテインメント

学生「この度は、貴重な機会をいただきありがとうございます。最先端の技術を学ばせていただいたこと、本当にありがとうございます。」
福田「こちらこそ、このイベントは、チケットを購入すれば自由にライブハウスに入りできるサーキット型のイベントです。多くの新しいアーティストとの出会いがある素晴らしいイベントなのですが、やはり物理的に全部を回るのにはなかなか難しいのが現実です。そこで、ライブ配信でも新しいアーティストの出会いを提供しようという今回は3日間、会場でも配信を実施します。そこで、皆さんにぜひこの収録に協力いただきたいのです。本日は実際にシステムの使い方を学ばせていただき、当日に向けて準備をしていきたいと思っています。皆さんの力を借りずして、配信の成功はないと思っていますので、よろしくお願ひします。」
寺田「早速ですが、僕らの質問があります。システムとしては最先端ですが、実は撮れる映像は決して特別なものではない普通の映像ですか、普通の映像ってどんなものかと思いませんか？」
学生「普通……」

必要とされるクリエイティブな力は、With「After」コロナ以降、主流になりつつあるオンラインエンタテインメント。2023年4月、ソニーグループ各社が連携して開発を進めてきた、高クオリティの音楽ライブ撮影を低コストで実現する、「自動ライブ撮影配信システム」がローンチした。
2023年10月、3日間で350組以上の新人アーティストが出演。大阪三軒のライブハウスを舞台に繰り広げられる、日本最大のライブショーケース「Eggs presents FM802 MINAMI WHEEL 2023」。今回のイベントの魅力はより多くの方に伝えるため、滋慶学園COMグループの協力の下「自動ライブ撮影配信システム」を使用し、ライブ配信を実施することになりました。本番を前に、在校生実習システムを使用してライブ映像を本番同様収録するというレクチャー会が開催され、「自動ライブ撮影配信システム」のプロジェクトリーダーの福田さんと、ライブ映像制作の立場でプロジェクトに携わる寺田さんとお話する機会が設けられました。

カメラが「未来」を制御し、スイッチャーでリアルな「今」を
福田「自動ライブ撮影配信システムは、いいものを低コストでつくりたいという開発目的からスタートしました。でも、そもそもコストダウンするには、それはいかにするか。カメラマンをなくせという大胆な発案には、それはいかにするか。カメラマンをなくせという発案は、通常であれば、最低限のカメラマンが必要ですが、このシステムでは撮影をAIが自動で行います。そして、その映像をコントロールパネルでスイッチングしていく。ライブ配信が、たった一人で実施可能なシステムです。これまで聞いて皆さんが思ったように、ちょっと不安そうなお顔をしていますが、そんなに不安を感じていないんです。学生操作やタイミングが、難しくありません。学生、カメラの動きってどのくらいスムーズなんでしょうか。やはり、どうしても機械的な動きになってしまうのではないかと心配です。」
学生「AIが、自分の想像どおりの映像をちゃんと撮ってくれるのが心配です。」
福田「そうですね、「AIが人間のカメラマンみたいにできるわけがない」とか「特定の声のほうが多かったら事実です。でもこのシステムを向のたに近づけたらいい」とか、決してAIが人間を超えるような、人間対AIをやった方がいいわけではないんです。例えば、カメラマンの分布図を「AI」に任せます。番上り、握りのとせも、技術が上手いカメラマンがいて、その下の層は豊富な経験で技術をカバーできるカメラマン。そして番上の層は、基礎知識は持っていて基本的な撮影ならできる人になります。」

福田「プロジェクト自体は以前より始まっていたのですが、開発が始まったのは、コロナ禍で行動制限され、よりライブ配信のニーズが高まりました。その行動制限により開催が難しくなりましたが、逆にソニーミュージックグループが運営しているZappのようなライブハウスの予約に空きが出て、開催が進んだ部分もあります。」
学生「やはり、コロナ禍の状況がこのシステムをへるきっかけになったのでしょうか。」
福田「プロジェクト自体は以前より始まっていたのですが、開発が始まったのは、コロナ禍で行動制限され、よりライブ配信のニーズが高まりました。その行動制限により開催が難しくなりましたが、逆にソニーミュージックグループが運営しているZappのようなライブハウスの予約に空きが出て、開催が進んだ部分もあります。」

に活用していきたいと考えているセクションです。今までは、配信ライブも一般的になってきましたが、僕たちは、テクノロジーの力でクオリティを下げずに音楽ライブ収録のコストを下げ、もっと沢山の素晴らしいライブを伝えるお手伝いをしたいと考えています。この「自動ライブ撮影配信システム」では、今までのおおよそ100のコストで音楽ライブを収録することを目標にしています。」
学生「やはり、コロナ禍の状況がこのシステムをへるきっかけになったのでしょうか。」
福田「プロジェクト自体は以前より始まっていたのですが、開発が始まったのは、コロナ禍で行動制限され、よりライブ配信のニーズが高まりました。その行動制限により開催が難しくなりましたが、逆にソニーミュージックグループが運営しているZappのようなライブハウスの予約に空きが出て、開催が進んだ部分もあります。」



(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント EdgeTechプロジェクト本部 LSチームチーフプロデューサー 福田正俊様

AIと人が共創するライブ配信を实践で学ぶ

福田「いいえ、このシステムは、このように3ミットの層の厚い層のなかに存在するの理想です。しかし、決して安い映像はつくりだしていません。映像の格好良さなどは人間の創り出すものには勝てないかもしれない。だけれど、このシステムの力を最大限に活用すれば、想像以上のものをつくることもできると思います。そうなるので、そこに必要になる安定したスイッチャー「上手なカメラワーク」のこのふたつが、タッチパネルを指本で操作するだけでできるのは、すごく魅力です。それと、無人カメラはどんな無茶な指示をしても文句を言わない(笑)。これは、すごくやりやすいと思います。」
学生「確かにカメラマンに対して、もっとこうして欲しいという希望があっても、あまり自分の希望を言えずに苦悶がなくなるのは嫌だなと思ってしまう時はあります。」
福田「そのストレスは、なるべく減らさなければなりません。」
寺田「まずそれぞれのカメラに、どのターゲット(人)を追うか指定できます。そして、顔、上半身、手元など、アングルをプリセットしておくことで指定した人を探すのが追いかけてくれるのでアングルを手元で切り替えるの可能性があります。それから、ズームはもちろん、動きをとめるのも、手ブレの設定もできます。」
学生「AIカメラの手ブレってどんな感じなのでしょう？」
寺田「実は、実際に人が撮影する際の手ブレをプログラムリングしています。かなり自然な手ブレを再現します。」
学生「その、カメラを制御するボタンの名前はあるのですか？」
寺田「パイロット、呼んでいます。」
学生「初めて聞きました！ 新しい職種ですかね。」
寺田「そうですね。これから浸透していくんじゃないかな。学生「今後この自動ライブ撮影配信システムに慣れたいくいくにあたり、どんなことを覚えていけばいいのでしょうか。」
寺田「例えば、上手なカメラマンは、自分の映像が今は使われていないとわかるので、次のような画面にするか、同時に物凄い判断力で変えていける。その判断力はなにを基準にしているのか、それは、自分でのように編集されるのか想像ができていかならなくて、自分のなかでスイッチングの間やタイミングがわかるようになると、編集ができるようになります。編集ができるようになってから、皆さんは意識していただくように思います。」
学生「スイッチングが安定するようになるまで、たくさん経験を積みみたいと思います。」
寺田「意外と感覚でやっても、恰好よかったですね。大切なのは、グループ。音楽の持っているリズムに乗るのが一番重要なんです。その「グループ」は、配信を観ている人にも伝わるので、学生「ライブ配信を観ていて、気持ちがあがって、そういうところからなので、今、今日は貴重なお話をありがとうございました。」
学生「このシステムは、そのようにして別々に成立していきたくて、このように

